

平成25年度 レベルアップ研修会（ヨット）実施に係る報告書



2013年10月25日
海洋教育課 中島 博臣

◆出張行程

10月19日（土）～10月21日（月） 2泊3日

◆出張場所

岡山県牛窓ヨットハーバー

◆出張者

事業部 指導者養成課 参事 細井 正幸
事業部 指導者養成課 岡本 祐子
事業部 海洋教育課 係長 中島 博臣

◆出張の目的

B&G海洋性レクリエーション指導員を対象に、技術や指導プログラム及び最新情報の提供を目的とした研修を行い、指導力、技術面での向上を図ることにより、地域での海洋性レクリエーション活動の推進を図り、ブロック、地域間のネットワークの親交を深める。

◆講師

B & Gテクニカルアドバイザー 小松 一憲

◆参加者

17名（岡山県13名 山口県3名 広島県1名）

◆日程

日	時間	研修内容	備考
前日準備 (10/19)	14:00	岡山県牛窓ヨットハーバー挨拶 器材および研修会場確認 担当者との打ち合わせ	
	14:30		
日	時間	研修内容	備考
1日目 (10/20)	08:30	会場設営 集合・受付（着替・準備）	
	10:00	開講式・挨拶・参加者自己紹介	
	10:30	経験者（AD）、初心者（AQ, IN, LE）に別れ、艀装	

	12:00	および陸上シミュレーション 昼食	
	13:00	実技（セーリング）	
	16:00	片付け ※海上が無風のため、予定より早く帰港 振り返り	
	17:30	解散	
日	時間	研修内容	備考
2日目 (9/30)	08:30	集合・艀装	
	09:00	実技（セーリング）	
	11:30	後片付け・閉講式	
	12:30	解散	

1日目 (10/20)	天候：弱雨	2日目 (10/21)	天候：晴れ
	風向：北北西		風向：南東の風
	風速：0～1m		風速：1～2m
	波高：0～0.5m		波高：0～0.5m

◆施設概要

牛窓ヨットハーバー

昭和62年7月に供用を開始。西日本最大級の大きさを誇り、約460隻のヨット・クルーザーが停泊できる公営マリーナ。

◆使用艇

AD資格保有者（経験者グループ）とAQ・IN・LE資格保有者（初心者・未経験者グループ）を分けて研修を行った。

【AD】

使用艇：470級 2艇、スナイプ級 2艇 計4艇

【AQ、IN、LE】

使用艇：シーホッパー 3艇

◆成果

参加者の習熟度別に2つのグループに分けて研修を実施したため、それぞれの参加者に対して効果的な指導ができた。経験者グループは小松氏、初心者・未経験者グループは細井参事が指導を担当した。

経験者グループのほとんどは470級、スナイプ級などのスループ艇を操船したことがなかったが、2日間の研修でスムーズに2点回航し、互いに競争できるレベルまで上達した。

スループ艇はランニング時に、それぞれスピナーカー（470級）、ウィスカーポール（スナイプ級）を使用するが、そのような機能を使用すること自体初めてだったため、参加者にとっては、その使用方法の理解が一番の難点であった。

小松氏は、1艇1艇がしっかりと走れるようになるまでボートで並走しながら指導し、時には

海上で参加者の艇に乗り移り、艀装の調整や帆走の仕方、スピナーカーやウィスカーポールの使用方法を効果的に教えられていた。

初心者・未経験者グループは、帆走の原理、艀装の仕方を確認し、実技を行った。2日間を通して風が弱く、恐怖心などを抱かず研修ができたことは、初心者にとって適当な導入となった。

また、ヨットの構造やロープワークなどを、単に机上のものとして覚えるのではなく、現場の状況を想定し、対応できるように覚える必要がある（ゆれる海上において、ロープにテンションがかかった状態で結ぶなど）と指導されたことは、参加者が今後指導する際に活かされる内容であった。

どちらのグループにおいても、新しい知識や技術の習得が図られるとともに、あらためてヨットの楽しさを知る良い機会となった。知識や技術のみではなく、ヨットの面白さを伝えられることも、指導者にとって重要なことなのだと感じさせられる研修となった。

◆課題

＜レベルアップ研修の位置づけ＞

AD個人の技能向上、ヨットの楽しさを体験することで指導者としての資質向上がはかれるなど、研修としての効果は高いが、参加者の指導力向上を目的したプログラムではないので、参加者のニーズとのミスマッチがある。指導ではOPヨットや救助艇を使用するので、アンケートにおいても、それらの研修を望む声が数件見られた。（カヌー指導という意見も数件ある）

しかしながら、AQ、IN、LEを対象とした場合には、知識・技術を習得し、次回に向けて意欲を見せる参加者がいるなど、次のレベルの資格習得へ向けたレベルアップには有効な研修であると感じた。

何に重点を置いてレベルアップを図っていくかが、今後の課題である。

＜実施規模＞

今回の参加者は17名であったが、センター数としては6センターにとどまっており、研修の波及効果としては限定的なものになっている。

用意できる艇の数と講師の人数にもよるが、一流の講師による研修をより多くの指導者に受けてもらうためにも、ブロック内外の多くのセンターからの参加が必要であるように感じた。

また、B&Gとして指導者に求めるもの、全国の指導者が研修に求めるものを考慮しながら、実施の内容・規模・実施場所・実施回数などを考えることが、参加者の確保や全国の指導員のレベルアップに繋がると考える。

◆参加者の感想（抜粋）

＜研修会へ参加した目的＞

- ・小松先生の研修を受けて、指導法などを学ぶため。
- ・養成研修修了以降、ヨットに乗る機会がなかったので、もう一度勉強するため。
- ・行事・教室の補助が出来るようになるため（AQ）
- ・数回経験しただけなので、しっかりと習いたかったため（LE）
- ・B&G 特派員としての取材

<研修内容への感想、意見>

- ・沖縄で小松先生に教わり、大変感銘を受けたが、今回も、より細かな内容でとても良い。
- ・天候が思わしくなかったが、こういったケースの研修方法について参考になった。
- ・スループ艇の帆走の方法が分かり、有意義であった。スピナーカーは難しかった。
- ・初心者コースと上級者コースが別々だったので、とても参加しやすかった。(AQ)
- ・それぞれのコースに講師がいたので、安心して学ぶことができた。(AQ)
- ・指導力が高いと参加者のレベルがしっかりと上がることを実感した。(B&G特派員)
- ・研修の時間が短いこともあり、もっと多くのことを学びたかった。
- ・ヨットの操船、競技ルール等を座学でも学びたい。

<今後希望する受講内容>

- ・OPヨットの研修
- ・カヌーの指導法
- ・ローボートの指導方法
- ・実技だけでなく、カヌーやヨットの大会ルールについても勉強したい。(AQ)
- ・初心者としての受講だったので、もう一度レベルアップ研修を受講したい(LE)

<開催希望時期、期間について>

- ・9月上旬から中旬の土日(プールが閉館するため)
- ・9月中旬(10月以降は運動会などの行事が忙しい)
- ・10月中、2日間
- ・休館日が多い月・火を含んだ日程
- ・3日間程度で内容の濃い研修

<支援の要望>

- ・指導者の派遣
- ・研修会の開催
- ・レベルアップ研修は実技を2～3日してほしい
- ・幼児運動プログラムの研修をブロック単位で行ってほしい
- ・財政的な支援(夏の時期だけでも財政的支援があったらよい)
- ・資格をフィードバックできるようなプログラムの作成
- ・瀬戸内海洋クラブでは、指導の全てをボランティア指導者がおこなっているので、ボランティア指導者(IN, LE)を対象とした研修会の開催を希望
- ・実技だけでなく、救助艇による救助方法の講習

◆所感

(細井)

当初の予定が台風の影響で延期になり、気温の下がった時期の開催で参加者確保に心配があっ

たが、3／5県（広島・山口・岡山）から17名の参加があった。

また開催にあたり、瀬戸内市教育委員会・財団法人岡山県牛窓海洋スポーツ振興会・岡山大学の協力のもと、スムーズに研修が実行できた。

初日は雨天の中で海洋クラブ員の指導者の積極的な参加もあり、充実した研修会が出来たと感じられる。

講師の小松先生の親身な指導も参加者の意識高揚の要因として挙げられる。

牛窓ヨットハーバーは、岡山国体の開催場所で、同施設内に海洋クラブ艇庫があり、海洋クラブ員は、中学・高校とヨットクラブに所属し徐々に成果が出てきているとの話があった。

（中島）

レベルアップ研修に今回初めて同行したが、小松講師の指導を直接見ることが出来、非常に勉強になった。

「座学・口頭での理解」「簡単な陸上シミュレーション」「実践（絶えず細かくアドバイスし、修正）」「陸上での振り返り」という流れを通して、効果的に参加者のレベルアップを図られていた。

最初の段階では現時点の理解力に合わせ、実技中に気をつけるポイントを最低限（クローズホールドのブームの位置、重心、テルテールの見方、ヒール）にすることで、初めて操船する艇の走らせ方を、わかりやすく指導されていたように思う。そして実技を行っていく中で、それらのポイントに対する個々の問題点を修正し、上達へ導かれていた。養成研修のヨット指導においても、このようなポイントを絞った分かりやすい指導法を参考にしていきたい。

私は小松講師の補助としてボートの操船などを行ったが、参加者からスループ艇の艀装や部位の機能について聞かれることも多々あった。実際に扱ったことのある艇ではないため、艀装の補助や質問に答えることが出来ず、最低限の知識や経験の必要性を感じた。10月下旬と11月上旬にはヨット研修に参加させていただくので、実りあるものにしていきたい。

本研修を通して、参加された方々は改めてヨットの操船方法を学び、ヨットの楽しさを感じられていた。課題に記載したことと同じになるが、このような研修をより多くの指導員に受けてもらうためにも、幅広い地域からの募集と、指導員が求めるレベルアップ研修の内容も検討する必要があると感じる研修となった。

（岡本）

10月20・21日と岡山県牛窓ヨットハーバーで行われました、ヨットレベルアップ研修は、1日目はあいにくの雨となりましたが、開催地である瀬戸内市邑久海洋センターの皆様や岡山大学の学生の方々の協力により、前日・当日の準備をいただけたためヨットの艀装等もスムーズに行うことができました。

また、積極的に質問等もされ、参加者でのコミュニケーションもとることが出来、初心者の方々が多かったのですが、瀬戸内ということであまり強く風が吹くことがなく円滑に実技を行うことができました。私としても、地元である周防大島町の先輩も参加しており、中国ブロックの方々との関わりを持つことができ、今後に生かせる情報交換の場となりました。

2日目は、快晴となり絶好のヨット日よりでした。参加者の方々も2日目ということでヨットにも多少慣れ、あまり風が吹かないためにかえって操船が難しそうに見受けられました。しかし、昼

に近づくにつれだんだんと風も吹き実技終盤には操船の技術も上がっていたように思います。私も救助艇の操船をすることや救助艇での役割や現場での確認すべき部分等を教えていただき、とても勉強になりました。今回は、スタッフとしての参加となりましたので、来年は四国ブロックでの研修に参加者として行きたいと思います。

◆写真

【開校式】



小松講師挨拶



細井参事挨拶



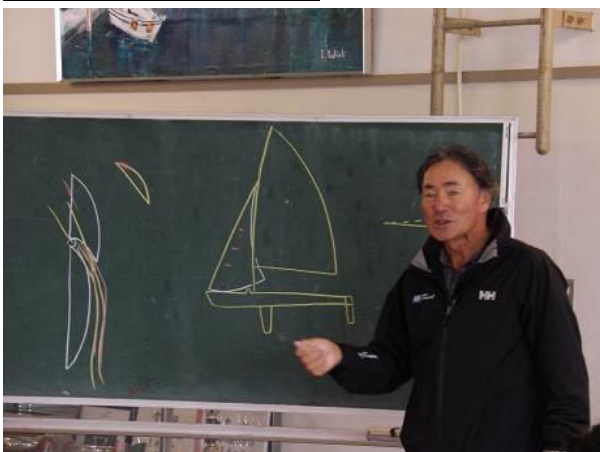
瀬戸内市教育委員会
今吉氏挨拶



参加者自己紹介

【実技1日目】

ADグループ（経験者）



クローズホールドのブームの位置、重心、テルテールの見方、ヒールについて説明



艀装について指導



正しく艀装が出来ているか確認



陸上シミュレーション
(トラピーズについて指導)



ボートで並走しながら、各艇に指導



各艇に乗り移り、艀装バランスの調整から、
操船方法について指導



初日終了時には、
2点回航ができるまでに上達

AQ、IN、LEグループ（初心者、未経験者）



ヨットについて講義



艀装について指導



参加者が協力して艀装を行った



操船のデモンストレーション



初日は活動水面まで曳航



風が弱かった為、
初心者には丁度良い練習環境だった



全参加者と実技終了後の振り返り
二人で乗る際のバランスについて説明

【実技2日目】

ADグループ（経験者）



2日目は風も良くなり、軽快に帆走



クローズホールド時のハイクアウト

AQ、IN、LEグループ（初心者、未経験者）



ティラー・メインシート操作に
慣れてきた参加者



クローズホールドでも
しっかり風を捕られるようになった参加者

【閉講式】



小松講師挨拶



修了証授与



瀬戸内市邑久B&G海洋センター（艇庫）

一階が艇庫、二階が更衣室という設計。

普段は海洋クラブの活動として、主にカヌー・OPヨットを使用している。

岡山大学や地元の高校のヨット部も同じ水面で活動している為、海洋クラブ員にも良い刺激があるとのこと。当日は高校ヨット部に入った、元海洋クラブ員も活動していた。

よく活動されているようで、艇庫内がとてもきれいに整頓されていることが印象的だった。



牛窓ヨットハーバー（説明は前述のとおり）

